

## 池の畔の遊歩音楽会 跡地巡礼 2021: ブロードキャスティングウォーク

鳥越けい子

### はじめに：

「まちあるきに資するガイドブック・HP 作成」をテーマに展開している本プロジェクトは、コロナ禍が続いた 2021 年度を迎え、そのフィールドを「善福寺池とその周辺地域」に絞り、「2 回目の跡地巡礼プロジェクト」成立の可能性を検討した。その結果、2010 年より継続実施してきた（この ACL レポートでもその内容をこれまで何回かにわたって報告してきた）＜池の畔の遊歩音楽会＞10 箇所の「跡地」を＜トロールの森 2021＞の会期中に「放送番組を模したトークによって巡礼」する＜池の畔の遊歩音楽会 跡地巡礼 2021: ブロードキャスティングウォーク＞という作品を構想・実施することになった。また、本プロジェクトが＜池の畔の遊歩音楽会＞のこれまでの歩みと深く関連するため、そのプロジェクト終了後には＜池の畔の遊歩音楽会＞の全体サイト作成の準備にも着手した。

### 1. プロジェクトの概要と趣旨

本プロジェクト＜ブロードキャスティングウォーク＞の趣旨と目的は、これまで 10 年以上にわたり継続的に展開してきた「現実の世界：REAL」での＜池の畔の遊歩音楽会＞の活動内容と、コロナ禍をきっかけに 2021 年以降導入することになった「非現実の世界：VIRTUAL」での活動との間を、音楽会メンバー間の「思考：THINK」によって繋ぎながら、＜池の畔の遊歩音楽会＞というプロジェクト全体をより多くの参加者に開いていこうとするものだった（図 1）。

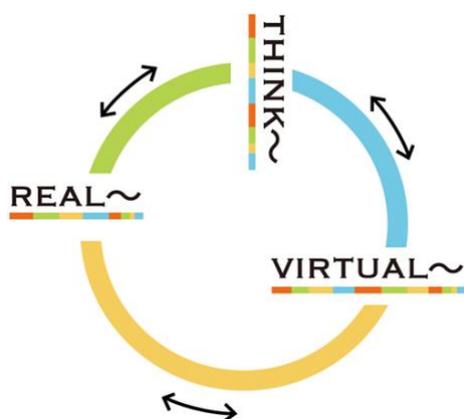


図 1. <ブロードキャスティングウォーク＞のコンセプト

(出典：<https://www.otonoba-soundscape.com/ikenohotori/index2021.html>)

「作品コンセプトの検討」や「事務局や遊歩音楽会チームメンバーとの諸調整」といった作業を除くと、その作業内容は、主として「思考の証言」「考察/編集」「掲載/提示」という3種類の活動に分けることができる。それは即ち、先ず（第一段階として）、鳥越けい子と鷺野宏が、遊歩音楽会チームのメンバーを中心に本プロジェクトに長年かかわってきた人々たちと個別に対話するなかで、2010年から2019年までの10年間にわたる遊歩音楽会の歩みを振り返り、その活動の意味が自分たちにとってどのような新たな感覚や発想を生んだのか、またそうした実感を踏まえたとき<池の畔の遊歩音楽会>というプロジェクト全体にどのような意味があったをめぐりさまざまな確認と思考を重ねた。次に（第二段階として）、その「思考の証言」の記録データを考察・分析し、その内容を池の周囲に点在する10箇所の「跡地」に紐づけると共に、その証言内容から遊歩音楽会全体の意味となる4つのテーマを引き出し、それら抽出した動画を「跡地巡礼する放送番組」として編集すること。そして最終的にはその編集後の内容を（やはり本プロジェクト用に特別に準備した）「特設サイト」に<トロールの森 2021>の会期中に順次掲載していくことによって「放送による巡礼」として実施展開することだった。

## 2. 全体スケジュール

本年度における作業工程の全体は、次のようにまとめることができる：

2021年4月 作品コンセプトの検討

5-6月 トロールの森 2021 事務局との面談・調整→作品コンセプトの再検討

6月13日 参加者全体会（オンライン開催）

7-8月 作品基本・実施計画の検討

9月 インタビューの対象・方法・スケジュール・サイトデザイン等の検討

10月 インタビューの実施・編集（内容分析/証言の抽出）

動画コンテンツ作成/サイトデザイン/会場設置用フライヤーの作成

11月 「編集」の継続/コンテンツのサイトフォーマットへの張り込み/

Webへのアップ/順次公開

12月 関係者へのお礼と活動の振り返り

2022年1-2月 上記サイトを掲載する〈池の畔の遊歩音楽会〉全体サイト作成の準備

### 3. 「思考の証言」の収集

〈池の畔の遊歩音楽会〉の「出演者」は、初年度とその翌年（2010/11年）には企画者にしてナビゲーターをつとめた筆者（鳥越）と、歌手の辻康介氏（以下、同氏を含め人名は「敬称略」とする）の2名だった。が、3年目の2012年にはパーカッションの立岩潤三が、また2013年にはチャングと踊りのチェ・ジェ Cholが参加するというように、メンバーがゆるやかに変化しつつその人数も増え、10周年を迎えた2019年までには総勢10名からなる「池の畔の遊歩音楽会チーム」が成立していた。

このことは〈池の畔の遊歩音楽会〉が、「企画者の想い」を中心としながらも、従来のアート作品におけるような「完結した/閉ざされたプロジェクト」ではなかったためである。つまり、10年という年月をかけて形成されていったこのプロジェクトは、「演者（遊歩音楽会チームメンバー）」はもとより地元ミニFMラジオ局「ラジオぱちぱち」メンバーをはじめとする「地元協力者」や専門家、また「サポーター」として参加した青山学院大学総合文化政策学部鳥越ゼミに所属する学生有志たち、さらには〈トロールの森〉の会場である都立善福寺公園という公共に開かれた「特定の空間・環境」において自由に出入りする「一般参加者」たちとの多様なコミュニケーションのなかで生まれ、展開していった「開かれた作品/プロジェクト」であった（あろうとした）ことを意味している。そのようななかで、昨年度に続き2021年度の共同制作者である鷺野宏もまた2010年より「都市楽士プロジェクト」主宰者として、このプロジェクトに初年度より継続して関わっていたという事実は、今年度の企画内容との関係においても重要な意味をもつ。

以上を踏まえつつ、今年度における時間や経費をはじめとする諸々の制約から〈池の畔の遊歩音楽会 跡地巡礼2021: ブロードキャスティングウォーク〉においては先ず、遊歩音楽会メンバー9名を、また地元協力者ならびに学生サポーターより各1名ずつ2名、合計11名のかたたちを「思考の証人」と位置付け、その「思考の証言」を得るための作業を展開することとした。具体的には、今年度の企画制作者が、メンバー各人が〈池の畔の遊歩音楽会〉に参加したときに「個人として主体的に感じたこと/考え方こと」について話を聞く。そうした対話をきっかけとして、最終的には〈池の畔の遊歩音楽会〉というプロジェクトの意味について共に考える作業を展開するため、本年度の企画・制作担当者2名が上記11名を対象にインタビューする機会を調整・準備した。

「思考の証人」の氏名（肩書き等）・参加年と遊歩音楽会を中心とした役割・参加年は次の通りである：

●遊歩音楽会チームメンバー

- ・辻康介（声楽家）、2010年から2016年、共創者・演者・コーディネータとして参加
- ・立岩潤三（打楽器奏者）、2012年、ドラブッカとフレームドラムと共に参加
- ・チェ・ジェ Chol（チャンゴ奏者）、2013-2014/2016-2019、演者として参加
- ・鈴木広志（サクソ奏者・作曲家）、2015年と2016年、演者として参加
- ・トチアキタイヨウ（舞踏家・俳優）、

2017年から2019年、ナビゲーター・ダンサーとして参加

- ・nonoliko（フラピスト：フラ&セラピー）、2017年から-2019年、演者として参加
- ・花ヲ（音楽家/創作神楽グループ・珊瑚花リーダー）、

2017年から-2019年、演者として参加

- ・Sango（ダンサー・珊瑚花メンバー）、2017年から-2019年、演者として参加
- ・月姫虹（笛とヴォイス・珊瑚花メンバー）、2017年から-2019年、演者として参加

●協力者・サポーター

- ・寺田史朗：企画者の母校・杉並区立井草中学校の先輩/杉並郷土博物館元館長

遊歩音楽会準備段階より現在に至るまでの協力・観察者

- ・入江恭平：演劇ディレクター（SPAC制作部所属/青学2018年度卒）

2017年と2018年にサポーターとして参加

インタビューに当たっては、鳥越と鷺野が聞き手となり、上記「思考の証人」一人ひとりを対象とし、2021年10月の数日にわたりオンラインで実施した。各人1時間から1時間半をかけ、先ず筆者が中心となり予め提示しておいた以下のような質問事項を「皮切りの話題」とした：

- 1) 池の畔の遊歩音楽会に参加したときの体験として、あなたにとって印象的だったことは何ですか？ もしくは「全体的な感想」でも構いません！
- 2) 池の畔の遊歩音楽会への参加を通じて、普段はあまり体験しないこと、苦労したこと、面白かったこと等があったら教えてください。
- 3) このプロジェクトへの参加を通じて、ご自身の普段の活動について新たに感じたことや、考えたことがあったら教えてください。

その後「聞き手」として鷺野が加わり、10年間にわたる〈池の畔の遊歩音楽会〉の歩みやその意味をめぐる議論を（鷺野による筆者への質問も含め）自由に展開した。

#### 4. 「考察／編集」

このようにして収集した「思考の証言」についての考察のためには、先ずその動画データを元に文字起こしをした。そのうえで「放送番組を模したトークによる跡地巡礼」というコンセプトを実現するため、善福寺上池周辺10地点に紐づく証言を抽出した。

さらに、2010年から2019年の10年間にわたり「リアル」に実施・展開してきた〈池の畔の遊歩音楽会〉というプロジェクト全体の意味に関わる証言を抽出し、そこから「アートから芸能へ」「演者と観客の関係を超えて」「気づきの装置として」「土地の歴史を踏まえる」という4つのテーマを導き出した。

こうした一連の作業の後、それら抽出した「証言動画」とその内容に関連する現場状況を示す「過去の静止画」とを組み合わせ、その動画にさらに「質問のテーマ」や「証言の文言のキャプション」を加えるという手続きでコンテンツを編集作成した。これら10ヶ所の「跡地」に紐づいた動画コンテンツにおける証人ならびにその証言内容の主要なテーマをまとめると次のようになる：

○1 番ヶ所 寺田史朗：ナビゲーターとしての辻康介の秀逸さ

辻康介：歌づくりのプロセスやスタイル（様式）

○2 番ヶ所 トチアキタイヨウ：湧水の出現を通じて確認した現場の「生きた自然」

- 3 番ヶ所 チェ・ジェチョル：初めて意識した縄文時代 / ハイアートと芸能の違い  
nonoliko：古いハワイと縄文に共通する文化 / あわの歌・音霊・言霊
- 4 番ヶ所 花ヲ：善福寺池で感じた野生 / 下北沢が失った「見えない世界」  
sango：ステージとは異なるパフォーマンスの現場 / 空間を共有する実感
- 5 番ヶ所 鳥越けい子：故郷への想い / 善福寺池の思い出
- 6 番ヶ所 立岩潤三：野外での演奏効果 / 特殊な反射音による演奏の活性化
- 7 番ヶ所 鈴木広志：精霊のように出現したこどもとのコラボレーションの喜び
- 8 番ヶ所 鈴木広志：鳥たちのとの共演の楽しみ  
入江恭平：地元の竹からの楽器づくりと演奏の体験
- 9 番ヶ所 トチアキタイヨウ：池の畔での踊りの発想と展開の方法
- 10 番ヶ所 月姫虹：現場の自然や歴史と対応した演奏スタイルの獲得

「4つのテーマ」についてその証言や発言を取り上げたメンバーは次の通りである：

●アートから芸能へ：

チェ・ジェチョル / 鳥越けい子 / 鈴木広志 / 鷺野広志 / トチアキタイヨウ

●演者と観客の関係を越えて： 花ヲ / トチアキタイヨウ / 辻康介

●気づきの装置として： 寺田史朗 / 鷺野宏

●土地の歴史を踏まえる： 寺田史朗 / 鳥越けい子 / 辻康介

## 5. 「掲載/発表」

このような14のコンテンツを、最終的には、本プロジェクトのために作成した「特別サイト」に＜トロールの森 2021＞の会期中の3回（11/3, 11/10, 11/17）に分けて順次掲載していくことによって、本プロジェクトのタイトルの所以でもある「放送番組による巡礼」を目指した。「特設サイト」に掲載した番組表（図2）はそのためのものである。

「思考」の検証 番組表

放送開始日	巡礼 箇所	思考の証人 (プロジェクトでの役割)
11/3	①	辻康介 (Vocal) 寺田史朗 (Observer)
	②	トチアキタイヨウ (Navigation & Dance)
	③	チェ・ジェチョル (Chango & Dance) nonoliko (Dance)
	④	花ヲ (Music) Sango (Dance)
	⑤	鳥越けい子 (Planning & Navigation)

図2. 「思考」の検証：番組表 (出典：図1と同様のサイト)

さらに「紙媒体のフライヤー」(図3)をあわせて制作し、同会期中に現場(善福寺公園上池)に設置した。そのフライヤー・デザインには「特設サイト」が扱う内容との関係を示すため、サイトのために作成したデザイン要素を使用するようにした。



図3 a. フライヤー表面

**ブロードキャスティング ウォーク**  
11/3→11/23

**「思考」の検証 番組表**

放送開始日	巡礼箇所	思考の証人 (プロジェクトでの役割)
11/3	①	辻康介 (Vocal) 寺田史朗 (Observer)
	②	トチアキタイヨウ (Navigation & Dance)
	③	チェ・ジェ Chol (Chango & Dance) nonoliko (Dance)
	④	花ヲ (Music) Sango (Dance)
	⑤	鳥越けい子 (Planning & Navigation)
11/10	⑥	立岩潤三 (Percussion)
	⑦	鈴木広志 (Sax)
	⑧	鈴木広志 (Sax)
	⑨	入江恭平 (Assistant)
	⑩	トチアキタイヨウ (Navigation & Dance) 月姫虹 (Music)
放送開始日	テーマごとの対話	思考の証人
11/17		寺田史朗 (Observer)・辻康介 (Vocal) 鳥越けい子 (Planning & Navigation) 鷺野宏 (Cooperator) ほか

**池の畔の遊歩音楽会 跡地巡礼 2021**

過去の音源をウェブ上に公開中  
「音源」による追体験

**CONCEPT**

2010年より芸術祭「トロールの森」の季節に、善福寺公園上池周辺において、土地の記憶を呼び覚まし、その歴史を紐解くことを目指して、「池の畔の遊歩音楽会」を展開してきました。今回はその跡地巡礼の2回目。現実と過去と思考を織り交ぜて楽しんでみてください。

**池をまわってやってほしいこと**

巡礼箇所ごとの課題リスト

- ① 三つ又の木に抱かれたとき、あなたは何を感じるでしょう？
- ② この場所で水が地上に湧き出したときのことを想像してみよう。
- ③ ドングリが落ちる音を通して大昔の人たちと交流しよう。
- ④ この地点で「雨乞い」をした人たちの気持ちを想像してみよう。
- ⑤ 久しぶりに「わらべ歌」を口ずさんでみよう。
- ⑥ ここで「鐘の音」が聞こえたら、それはどこから・どんな音？
- ⑦ 目の前の島に棲まう各種の生物・生命たちと対話してみよう！
- ⑧ 今の公園を見て、内田秀五郎さんは何を思っているでしょう？
- ⑨ 頑張って「河童の声/カワウソの声」を聞いてみてください！
- ⑩ 全身で、この環境の素晴らしさを受け止めてください。

図 3-b. <池の畔の遊歩音楽会 跡地巡礼 2021: ブロードキャスティングウォーク>

紙媒体のフライヤー (a.表面と b.裏面)

おわりに

今年度の活動内容において最重要アイテムとなる「思考の証言」の内容については、以下の特設サイトの「2021:Broadcasting Walk」をクリックしてその動画を視聴いただきたい。

<https://www.otonoba-soundscape.com/ikenohotori/>